

2017.6.22

vol.58

シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

コラム『たそがれの維納』

戦前オーストリア映画の豊潤な遺産 K.M.

今回の作品は、2年前の「シネマ・ド・リぶら」第40回で上映した『未完成交響楽（1933年）』に続いての、ヴェリ・フォルスト監督の第2回監督作品です。製作は1934年。ナチスドイツに併合される直前のオーストリアの映画です。タイトルの“維納”は戦前使われていた「ウィーン」の漢字表示です。紐育（ニューヨーク）、倫敦（ロンドン）、巴里（パリ）、伯林（ベルリン）、羅馬（ローマ）などに比べると覚えにくいですね。

この作品について、あまりご存じない方が多いかもしれませんが、淀川長治さんはこの作品のDVDの解説映像で「…ウィーンの映画というのは本当のハイクラスなんですね、『たそがれの維納』は、そのウィーンの映画の中でも、最高の代表作品なんですね。今、皆さんがご覧になってもきっと、当時のオーストリアでこんな文学的で、美しく、面白くて、すごい映画が作られていたのか！と思われるでしょう。…」と語っています。

第40回の『未完成交響楽（1933年）』上映会の時、私も1950年代から60年代にかけてハリウッドで活躍したオットー・プレミンジャー監督（作品は『帰らざる河』他多数）、フレッド・ジンネマン監督（作品は『地上より永遠に』他多数）、ビリー・ワイルダー監督（作品は『第十七捕虜収容所』他多数）などおなじみの巨匠が、そろってオーストリア＝ハンガリー帝国生まれで、若い頃オーストリア映画界で鍛えられた経歴の持ち主であることを知りました。戦前のオーストリア映画のレベルの高さを推察していたので、大いに期待してこの作品のDVDを初視聴しましたが、期待に違わぬ洗練された素晴らしい作品でした。

舞台は20世紀初頭のウィーン。色事師としても名高い有名画家ハイデネクは、謝肉祭の舞踏会の晩に医学教授ハラントの妻ゲルダを、素肌にチンチラのマフをつけ仮面を被っただけの姿でスケッチします。ところがこのスケッチが手違いで謝肉祭特別号の新聞に載ってしまい、「モデルは誰？」とウィーンの社交界は大騒ぎに。困ったハイデネクは、モデルの名前を出まかせで、ドゥア（音

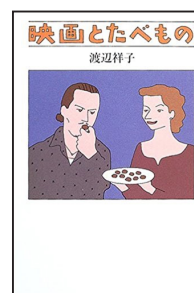
楽用語の長調のこと）とってしまいますが、たまたま“ドゥア”という名前を持つ娘が一人ウィーンに実在していて…というお話です。

物語は、華やかな中に男と女の思惑が交錯する舞踏会のシーンから始まり、ウィーン・フィルが演奏するスツペ作曲「美しきガラテア」序曲に乗せて、舞踏会の熱気と軽薄な雰囲気が生生きと描かれていきます。「美しきガラテア」は芸術家（彫刻家）とその作品（美女の裸身彫像）のモデルを巡る愛憎劇であり、フォルスト監督はこの曲の選択によって、これから始まる物語のテーマを暗示しようと意図したのでしょうか。後は彼の洗練された演出に導かれて、美しく聡明な“ドゥア嬢”が物語に絡んできて、ハイデネクに真実の愛を気づかせるまでのドラマ展開に向かって、一つ一つのシーンが無駄なく布石されていきます。物語の舞台となる20世紀初頭のウィーンの繁栄を映し出す豪華な建物と内装や美しい衣装はなかなかの見物ですし、深夜まで続く夜会のこの時代ならではの豊潤で楽しそうな享楽の描写は、時代を超え場所を超え、描かれるその世界にドップリと浸るとい映画の楽しさを与えてくれます。

そして登場人物ですが、名うての色男ながら純情なヒロインにころりとまいてしまう画家ハイデネクも好感が持てたし、彼を巡る三者三様の美女も魅力的でしたが、私が一番魅かれたのは、この映画の最終場面で、万事を了解し総てを己れの胸に納め、この物語の幕引きの主役となる医学教授でした。彼が“ドゥア嬢”に向かって言う「ウィーン中の夫の名にかけてお礼を言う」というセリフと、映画の最期の見せ場となるオペラ座のシーンで彼が演じる「大人の対応」がぐっときました。この場面で選ばれた音楽は、オペラ史上もっとも有名なテノール歌手の一人エンリコ・カルソー（ただし声のみです）の歌う『リゴレット』の「あれかこれか」と「女心の歌」でしたが、ここにもフォルスト監督の絶妙な選曲のセンスが光ります。

「映画+」 & 「映画 in」 な資料

『ウイスキーアンドシネマ』 琥珀色の名脇役たち	武部 好伸／著	淡交社	778.04
『映画とたべもの』	渡辺 祥子／著	ぴあ	778.04
『映画にまつわるxについて』	西川 美和／著	実業之日本社	778.04
『映画でクラシック!』	西村 雄一郎／著	新潮社	778.04
『映画の中のオペラ』	中野 京子／著	未来社	778.04
『世界文学を DVD 映画で楽しもう!』	大串 夏身／著	青弓社	778.04
『DVD 映画で楽しむ世界史』	大串 夏身／著	青弓社	778.04
『列車映画史特別講義』 芸術の条件	加藤 幹郎／著	岩波書店	778.04
『トラウマ恋愛映画入門』	町山 智浩／著	集英社	778.04
『レシピドシネマ』 しあわせを運ぶ 29 のおいしい映画	川端 麻祐子／著	ゴマブックス	778.04
『映画の中の本屋と図書館』	飯島 朋子／著	日本図書刊行会	778.2
『映画の中の本屋と図書館 後篇』	飯島 朋子／著	日本図書刊行会	778.2
『ヨーロッパ・映画の旅』	山村 謙一／著	弦書房	778.04



5/24 「類猿人ターザン」の感想

- ・童心に帰れた。美しい自然！
- ・昔の映画も単純で楽しいです。
- ・子どもの頃、「ターザンごっこ」をしたことを思い出しました。象がすごい！演技してたの？
- ・人間と動物とターザンを通して命の大切さに感動し、愛の大切さを感じました。
- ・楽しかった。幼い頃を思い出しました。ありがとうございます。
- ・スリルが有り、迫力満点でした。おもしろかったです。
- ・ターザンに元気をいただきました。セットに感銘！
- ・楽しかったです。

- ・感動の連続～！あの時代にこんな画面を作っていた人々の力に感動です！
- ・ハラハラして、あっという間に映画が終わった。『ターザン』すごいと思う。
- ・ターザン映画は初めてでしたが、自然がすごくよかったです。
- ・とても楽しく見させていただいて感謝しています。
- ・ターザンのストーリーが、この年で初めてわかった。チータがとてもよい役。助演賞です。
- ・6年前、今は亡き夫とアフリカを旅したことを思い出しました。自然の中では、人間の小ささを思わずにはいられません。

- ・古い映画だったが、丁寧に作っており、おもしろかったです。
- ・ターザン、かっこよかったです。『アー、アアー』を初めて生で聞きました。
- ・昔見たことがありましたが、70歳になり、あらためて感動しました。
- ・初めての参加でしたが、とてもよい時間になりました。ありがとうございました。
- ・よかったです。
- ・Great!



邦画に字幕が必要な理由 ～「シネマ・ド・リぶら」にご来場の皆様へ～

次回上映の『あん』のご案内にある「日本語字幕上映」を不思議に思われるかもしれません。日ごろ皆さんは洋画を字幕でご覧になっていると思いますが、もし字幕がなければどうでしょう？「何を言ってるのかわからなくてつまらない映画」になってしまうことでしょうか。失聴・難聴者が邦画を観る時がこんな状態だと気づいていただければ、邦画にも字幕が必要だと理解していただけたらと思います。

近年ではDVD化も早く、字幕もついてきます。映画館でも字幕映画を上映するようになっていますが、まだまだ本数も期間も上映場所も限られています。また技術の革新で、専用眼鏡で字幕が表示される技術が開発されていますが、普及はまだ少し先のこととなりそうです。

そこで、失聴・難聴者皆さんにも映画館で観るように邦画を楽しんでいただくために、字幕付きの邦画を選びました。字幕を邪魔に思わず観賞していただき、映画鑑賞の場にもバリアフリーを根付かせていけたらと思います。

また、このような想いもある上で、上映会を開催していることをご理解いただきたいと思います。

『あん』と同じ河瀬直美監督の『光』という映画が劇場で公開されています。河瀬監督のオリジナル脚本の映画ですが、題材は『音声ガイド付き映画』です。視覚障害の人は映画を鑑賞する際、セリフなどの音声しか楽しめませんが、映像を言葉で説明する「音声ガイド」のサービスがNPOを中心に広がっているようです。

そこで、「音声ガイド」について調べてみたら、『あん』にも音声ガイドが付いていることがわかりました。今回は対応できませんが、いずれ機会がありましたら取り組んでみたいと思います。

字幕付きの邦画に限らず「リぶら」で上映できる作品は限られていますが、今後も「シネマ・ド・リぶら」の活動にご協力のほど、よろしくお願いいたします。

リぶらサポータークラブ

注意 上映中の携帯操作は、周りの方の迷惑になりますのでご遠慮下さい。また、観賞マナーを守り、終了後も明るくなるまで席を立たないようにお願いします。



リぶらホールには磁気ループが設置されています。補聴器を利用されている方は、Tモードに切り替えてください。



サロン・ド・シネマについて

6月～9月は、ホワイエが大変暑くなるため、サロンの開催をお休みさせていただいています。水分の補給等、各自でお願いいたします。

賛助とご寄付のご案内

賛助サポーターは、年度更新となります。更新の手続きがお済みでない方は、事務局にて手続きをお願いいたします。なお、ご寄付は随時受け付けておりますので、スタッフにお申し出ください。

今年度の上映についてのご案内（上映日および上映作品は変更になる場合があります）

第60回 9月21日（木）『自転車泥棒』	① 10:30～ ② 14:00～
第61回 10月19日（木）『荒野の決闘』	① 10:30～ ② 14:00～
第62回 12月21日（木）『みじかくも美しく燃え』	① 10:30～ ② 14:00～
第63回 1月18日（木）『バルカン超特急』（再上映）	① 10:30～ ② 14:00～
第64回 2月15日（木）『黒いオルフェ』	① 10:30～ ② 14:00～

平日の昼間には参加できない方たちのために、来期は現行の「午前の部」「午後の部」に加えて、「夜間の部」を予定しました。6月と8月の上映の結果を踏まえ、その後の検討に入ります。

「シネマ・ド・リぶら」映画上映会（第 59 回）

あん

日本語字幕上映



町の小さなどら焼き屋“どら春”で雇われ店長をしているワケありの中年男、千太郎。単調な毎日を送る彼の前に、ある日、求人募集の張り紙を見て働かせてほしいと申し出る老女、徳江が現われる。彼女の粒あんが絶品だったことから雇ってみたところ、たちまち評判となり、店はみるみる繁盛していくが…。

監督・脚本：河瀬直美
原作：ドリアン助川『あん』（ポプラ社刊）
主題歌：秦基博『水彩の月』
出演：樹木希林、永瀬正敏、内田伽羅
市原悦子、太賀、浅田美代子

製作：2015年 日本/フランス/ドイツ
上映時間：113分

★日 時 8月24日（木）

① 10:30 ~ 12:25 開場：10:00

② 14:00 ~ 15:55 開場：13:30

③ 18:30 ~ 20:25 開場：18:00

★場 所 りぶらホール

★定 員 各回先着 280 人（入場無料・全席自由）

★主 催 岡崎市立中央図書館
りぶらサポータークラブ

★問合せ TEL：23-3114 / 070-5252-7263
mail：lsc-office@libra-sc.jp

託児：500円
（各回5名まで）
申込みは、
1週間前までに。

